

Ⅱ 実践編

17 家具の転倒防止

(1) 説明ポイント

【家具の転倒防止対策】

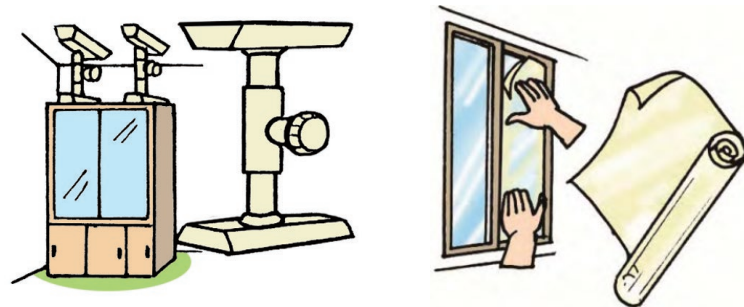
備えをしていないと、家具転倒による怪我だけでなく、家具の上に置いていた物が電化製品などに落下し、火災になってしまうことも考えられる。

【家具の固定方法】

- ① L字金具やチェーンでの固定
- ② ボール式器具（いわゆる突っ張り棒）による固定
- ③ 粘着マットや粘着ベルトによる固定
- ④ 収納や置き方の工夫

【家具転倒防止対策の取組支援】

横浜市では、高齢者や障害者の世帯など、ご自身で器具を取り付けることが難しい方に向けて家具転倒防止対策の取組を支援するため、転倒防止器具の取り付けを無料代行しています。（器具代は申請者のご負担となります）



Ⅱ 実践編

(2) 説明要領 ※ 参考例文になりますので、適宜修正してください。

説明例文

みなさんこんにちは。〇〇消防署の〇〇と申します。これから家具の転倒防止について説明していきます。

さっそくですが、みなさんのご自宅は家具の転倒防止対策をしていますか？地震が起きた時にご自身やご家族の身を守るためには、家具の転倒防止対策を行うといった日頃からの備えが大切です。備えをしないと家具転倒による怪我だけでなく、家具の上に置いていた物が電化製品などに落下し、電源コードの被膜が破れてしまって、火災になることも考えられます。

そのほか、コンセントの差し込み口に燃えやすいものが落ちてきてしまったために火災になってしまう恐れもあります。

家具の転倒防止は減災行動の基本です。日ごろからの備えとして家具を固定し、万が一家具が倒れた場合に備えて家具は安全な場所に配置しましょう。

具体的に、家具の固定方法などの安全対策はこれからお伝えする4つの方法があります。

一つ目は、金具による固定です。これは、家具をL字金具やチェーンで柱や壁の間柱に固定をします。重なった家具は、上下に固定してください。

二つ目は、ポール式器具(いわゆる突っ張り棒)による固定です。これは、家具と天井の間の両端に突っ張り棒を入れて固定してください。ただ、柔らかいベニヤ板などの天井には不向きです。

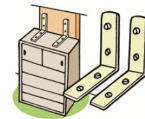
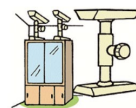
三つ目は粘着マットや粘着ベルトによる固定です。特に金具で固定できないテレビや冷蔵庫は、粘着マットや粘着ベルトで固定してください。

四つ目は、収納や置き方の工夫です。重いものは下に収納し、高いところには物を置かないようにしましょう。また、家具の前の方に板を敷き、壁に寄りかからせるようにしましょう。

横浜市では、高齢者や障害者の世帯など、御自身で器具を取り付けることが難しい方に向けて家具転倒防止対策の取組を支援するため、転倒防止器具の取付けを無料代行しています。(器具代は申請者のご負担となります。)

詳しくは案内ちらしをご覧ください。

Ⅱ 実践編



(3) 知識

ア 家具転倒防止について

地震が起きた時に、ご自身やご家族の身を守るためには、家具の転倒防止対策を行うといった日ごろからの備えが大切です。備えをしないと家具転倒による怪我だけでなく、家具の上に置いていた物が電化製品などに落下し、電源コードの被膜が破れてしまって、火災になることも考えられます。そのほか、コンセントの差し込み口に燃えやすいものが落ちてきてしまったために火災になってしまう恐れもあります。家具の転倒防止は減災行動の基本です。日ごろからの備えとして家具を固定し、万が一家具が倒れた場合に備えて家具は安全な場所に配置しましょう。

イ 家具転倒防止器具の取付代行事業について

横浜市では、高齢者や障害者世帯など、御自身で器具を取り付けることが難しい方に向けて、家具転倒防止対策の取組を支援するため、転倒防止器具の取付けを無料代行します。（器具代は申請者のご負担となります。）詳しくは案内ちらしをご覧ください。

Ⅱ 実践編

ウ 参考資料

教材等	内容	備考
防災よこはま (横浜市ホームページ)	横浜市は、大地震や台風、土砂災害などの様々な危険にさらされています。 本冊子では、こうした様々な災害に対する市民の皆様による自助、共助の取組の参考にしていただくために作成したものです。	参考リンク： 防災よこはま 上記のサイトからダウンロードできます。
よこはま防災e-パーク	火災、地震、風水害など、いざという時の備えを動画やミニテスト等の充実したデジタル教材で学ぶことができます。	参考リンク：よこはま防災e-パーク 手軽に学べる3分シリーズ(地震)、学習動画一覧(地震) ※職員用ページにも掲載しています。
家具転倒防止対策 (横浜市ホームページ)	家具転倒防止器具の取付代行事業等について掲載しています。 → 主管局は総務局(区役所総務課)	参考リンク： 家具転倒防止対策

Ⅱ 実践編

(4) 予想Q&A

Q1 対策器具の価格や販売先を教えて欲しい。

A 対策器具の価格は、対策器具の種類によって異なり、安いもので数百円から、高いもので数千円程度です。家具販売店やホームセンターをはじめ、百貨店の防災用品コーナーなどで販売しています。

Q2 どれぐらいの高さの家具に転倒防止をしなくてはならないのですか？

A 対策を実施しなくてはならない家具の高さや重さの基準はありません。これは、家具の形状や、収容物による重心の違い、発生する地震の特徴等によりどの家具が倒れるとは一概に言えないからです。すべての家具に対策を行うことが最も安全ですが、すべての家具に行うことが困難であれば、寝室などに家具を置かないことや、家具の倒れる方向を考慮した家具の置き方にするなどの工夫をした上で、重量や高さのある家具を優先に、出来る家具から順番に対策を実施してください。

Ⅱ 実践編

Q3 壁や家具に穴を空けられないのですがどのように対策をすれば良いですか？

A 最も効果の高い家具転対策器具はネジで固定するもの（L型金具等）です。
しかし、賃貸住宅や大切な家具にキズをつけたくない方には、穴を開けなくて済む器具を、2つ以上組み合わせる方法があります。例えば、ポール式器具と粘着マット（ベルト）を2つ組み合わせることで、一番効果の高いL型金具と同等の効果が期待できますので、こうした方法で対策を行うことも有効です。

Q4 自宅は免震マンションなので対策しなくても大丈夫ですか？

A 免震機能を有するマンションでは、地震の揺れは軽減されますが、全く揺れなくなるわけではありません。免震機能付きマンションにお住まいの方も、油断しないで、家具転対策を実施しましょう。